

オンライン公開小委員会・勉強会のご案内

日本建築学会都市計画委員会 キャンパス・リビングラボラトリ小委員会 主催

都市とキャンパスのリデザインに資するリビングラボラトリ概念の掘り下げ ～リビングラボ・デザインは何に有効で、何を突破できるのか～

昨年春に実施した公開小委員会・勉強会では、昨年1月に当小委員会の編著により出版された「まちのようにキャンパスをつくりキャンパスのようにまちをつかう」の各節著者からの解説を交えつつ、建築学会以外の、まちづくりの実践や計画にかかわる方々に幅広くご参加をいただき幅広い議論を行うことができました。

今回の公開小委員会・勉強会では、昨年の議論の成果を踏まえ、今年9月に開催を予定している建築学会研究懇談会「都市と大学のリデザインに向けたリビングラボラトリの可能性」の企画や資料編纂（寄稿論文集）へのステップとして、特に「キャンパス・リビングラボ・デザイン」という枠組みが何に有効で、現状の何を突破しうるのかを中心的に議論したいと考えています。

また、2020年度の本小委員会では主要な活動として9月にはオーガナイズドセッション研究交流会（都市計画委員会主催、オンライン）を実施し、11月には「コロナ禍における大学キャンパス利用者実態調査2020報告」を公表しました。これらも含めて、大学での研究教育あるいは都市の生活において「空間がもたらす意味」についても掘り下げ、2020年度の成果まとめをも兼ねた議論にしたいと考えています。

キャンパス計画の研究者・実践者に止まらず、設計事務所や行政、建築以外の分野も含めて、幅広いご参加をお願いいたく存じます。お誘いあわせのうえご参加を検討なさってください。

日時 2021（令和3）年3月27日（土曜日）、14:00～17:00（合計180分）
オンライン（Zoom）開催；お申込み頂いた方々へZoom参加要領を3/22頃にメール送信します。

プログラム（一部、当日までに、スピーカーをふくめて変更される場合がありますことお含みおき下さい）

開会挨拶・主旨説明 小篠隆生（主催小委員会主査、北海道大）

話題提供 6題×15分程度を予定しています。

- (1) 上野 武（千葉大） 旧来の産学連携との対比としてリビングラボラトリをどのように捉えうるか（仮）
- (2) 斎尾直子（東工大） コロナ禍における大学キャンパス利用実態調査から考えるキャンパス空間の意義（仮）
- (3) 小貫勅子（東北大） 生活圏としてのキャンパスと周辺地域、それらが都市や地域にあたえる影響や効果（仮）
- (4) 武田史朗（立命館大） 残余空間ではないキャンパスランドスケープの価値と都市の再生（仮）
- (5) 恒川和久（名古屋大） 公共建築と大学施設計画の両方の観点からリビングラボラトリの可能性を考える（仮）
- (6) 平松宏城（(株)Woonerf） まちや空間の価値をはかるとき、具体的にどのような指標化を考えることができるか（仮）

ディスカッション モデレーター；小篠隆生（前掲）

ゲストコメンテーター 齋藤敦子（ココヨ（株）、（一社）Future Center Alliance Japan 理事、JFMA オフィス・ワークプレイスの知的生産性部会長）

まとめ 太幡英亮（主催小委員会幹事・名古屋大）

司会・記録； 吉岡聡司（主催小委員会幹事・大阪大）、副司会／副記録；池内祥見（大阪大）

お申込み・お問合せ： 吉岡聡司（大阪大）sato.yoshioka[at]gmail.com（[at]を”@”に置換して下さい。）

3/19金曜日までに、件名「3/27参加」としてご連絡下さい。

なお当日17:30～19:00、オンライン懇親会を引き続いて開催したいと思います。

退席時等もご挨拶は一切不要ですので、お気軽にご参加を検討ください。メールを下さればZoom案内をお送りします。